

AIネイティブカンパニーへの変革

当社では、AIを単なる効率化ツールではなく、社会価値を創出するための基盤技術と位置づけ、AIネイティブカンパニーへの変革に向けた取り組みを推進しています。

2025年度は「AIネイティブ元年」と位置づけ、全社で生成AI活用を加速しました。AIタスクフォースを立ち上げ、人、AI、ツールを融合した標準プロセスの確立や教育強化を進めました。全社施策としてはAIツールの活用を促進し、「AI活用アイデアコンテスト」を開催。社員一人ひとりがAIを“まず使ってみる”文化の醸成を進めました。現在では9割以上の社員が日常業務でAIを活用しています。

さらに、社長によるTown Hall Meetingでも、複数回にわたりAIをテーマとしてメッセージを発信しています。AI活用を一過性の施策ではなく、会社として取り組む重要な経営テーマと位置づけ、社員との対話を重ねながら理解浸透を進めています。

2026年度は、AIネイティブエンジニアを育成する手上げ制の研修を開始し、社員自らが学び、実践することで、AIを前提とした新たな働き方・開発スタイルへの変革を推進しています。また、安全性・信頼性を備えたAIの社会実装を推進するために重要となるのが、AIを使いこなし、価値へ転換できる人材の育成です。今後、AI活用スキルの向上や実践機会の拡大を通じて、社員一人ひとりの専門性を高めながら、AIネイティブカンパニーへの変革をさらに加速していきます。

■2026年5月の社長によるTown Hall Meeting

